

第19回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2000年3月28日（火）10：30～11：00

2. 場 所 委員会会議室

3. 出席者 藤家委員長代理、遠藤委員、木元委員
 （事務局等）科学技術庁
 原子力局
 中澤審議官
 政策課 田口、大島
 原子力調査室 伊藤室長、板倉、池亀、鯉渕
 吉舗専門委員

4. 議 題

- （1）平成12年度原子力研究、開発及び利用に関する計画について
- （2）その他

5. 配布資料

資料1 平成12年度原子力研究、開発及び利用に関する計画（案）

資料2 第18回原子力委員会臨時会議議事録（案）

6. 審議事項

- （1）平成12年度原子力研究、開発及び利用に関する計画について

標記の件について、政策課より資料1に基づき説明があった。これに対し、

ロシアの核解体に関する核燃料サイクル開発機構（サイクル機構）と外務省の予算は、どこに計上されているか。

（政策課）外務省分については平成7年度の補正予算として1億ドルが計上され、基金が創設されている。サイクル機構については、研究開発の一環として計上している。

国民からの意見募集は、政策決定過程の透明性の中に含まれるのか。

（政策課）意見募集については「主な項目」の中に挙げているが、具体的な記述について、検討する。

各項目の順番については、固定とするか、その時々で変えるか、考慮すべきである。安全最優先として、安全に関する項目を冒頭に記載する考え方もあるが、新しい芽が出たときにはそれを最初を書くべきかとも思う。平成12年度計画では安全対策は非常に重要なテーマであり、冒頭に記載するのが相応しいが、平成13年度の計画では考えて欲

しい。

（政策課）計画の書き方として、Ⅱ．の部分の順番は比較的固定している。Ⅰ．の部分については年度によって異なる。例えば、原子力利用長期計画の策定については、平成 11 年度の計画では冒頭に記載していたが、今回の計画では最後に記載している。平成 13 年 1 月の省庁再編によって原子力委員会の体制が変わることを考慮して、記述を検討して欲しい。日本の国際的立場の変化をどのように表現するかについても、考えて欲しい。

国民の感覚からすると、冒頭に書かれるべき項目は臨界事故のこと。記載する事項や順番には、各年度の考え方が出てよい。

等の委員の意見及び質疑応答があり、本件については引き続き審議をすることとなった。

（２）議事録の確認

事務局作成の資料 2 第 18 回原子力委員会臨時会議議事録（案）が了承された。

なお、事務局より、次回は 3 月 31 日（金）に臨時会議を 10：30 より開催する方向で調整したい旨、発言があった。